

SMI(サンデン経営研究所) メールマガジン 第2号

【本号のテーマ】

- ・SMI常務理事[加藤幸男]からのご挨拶
 - ・SMIメールマガジンに期待すること
 - ・SMIの所在地と連絡先のご紹介
 - ・当メールマガジンの編集方針
- ※編集後記＜編集者より＞



サンデン経営研究所・外観

2022年11月11日発行

SMI常務理事[加藤幸男]からのご挨拶



■ご挨拶＜タイトル:宇宙旅行計画＞

この度、サンデン100年の歴史を次世代に継承すべくSMIがスタートすることになりましたが、折から円安の嵐が吹き荒れる大変な時代となってしまいました。ちなみにこの円という呼称は、大隈重信が生みの親である事は、つとに有名であります。

「時代の進運と言うものは冷酷極まるもので、自分と一緒に駆けるだけの力のないものをば容赦もなく振り捨てててずんずん変転してゆく」という大隈の言葉も残っております。※出典:「大隈重信演説談話集」早稲田大学編(岩波文庫)協力:早稲田大学歴史館

早稲田大学の創設者であり、近代日本の設計者としてもさまざまな功績を残した大隈重信侯は、今の日本をどう見ておられるでしょうか。

技術には国境があります。サンデンの前身である三共電器と米国ミッチェル社の技術提携(1970年)は、日本の国の大きさを考えても「技術移転」の成功事例と言うことが出来ます。

海外に通用する新しい仕事をしたいと、事業に参入したサンデンは、カーエアコンのコンプレッサーで世界2位、海外売り上げ比率65%、GMやフォードなどを顧客に持つグローバル企業になりました。

(本人近影)



現在は、中国の海信オートモーティブエアコンシステムズの傘下に入っておりますが、はからずも中国古来の諺に「井戸を掘った人を忘れてはならない」というものがあります。サンデンが世界で認められるために「品質」と「環境」の両面において世界最高レベルを目指して取り組みを重ねた歴史が、SMIにはアーカイブされております。

上州伊勢崎の地場産業から始まり、一地方企業の枠から大きく踏み出すとともに、品質分野、環境分野で世界トップクラスの水準を獲得し、グローバル・エクセレント・カンパニーの仲間入りを果たした歴史をかたる貴重な諸資料を死蔵することなく、今に生かし、地域社会に開放し、次世代を担う企業経営者・起業家ひいては、地域社会発展の可能性を学ぶ学生諸君の為にも役立てて参りたいと考えております。

また、SMIは、歴史資料のアーカイブに留まらず、皆様に開かれた地域発展の情報提供の場となるように活動を進めて参ります。活動の中心になる方々は、様々な立場でこれまで企業の発展に貢献してこられた方々で、多方面にわたる情報発信を行って参りますので、多くの皆様の積極的なご参加とご支援を期待しております。



(フルブライト留学生時代のひとコマ)

SMIメールマガジンに期待すること (皆さまからのご意見・ご要望を紹介)

■第1号メールマガジンにこんなご意見・ご要望が寄せられました

- ・藤井さんお誕生日おめでとうございます！お誕生日と同じ日の開所、ダブルでおめでたいですね。
- ・歴史の積み重ねと今般のようにSMIを設立されたという事実は、サンデンカルチャー？文化の維持発展を示しているのでしょうか。
- ・サンデン経営研究所の開所おめでとうございます。何かご協力が出来そうな事があればいつでもお話し下さい。
- ・設立にあたっては大変なご苦勞があったかと思います。私もサンデン社員の一員としてサンデンの経営の歴史を感じにお伺いしたいと思います。
- ・安心する方々のお名前を拝見し、あたたかな気持ちになりました。
- ・ありきたりの情報が氾濫する世の中、真に役に立つ「ありのまま」の情報発信をお願いします。

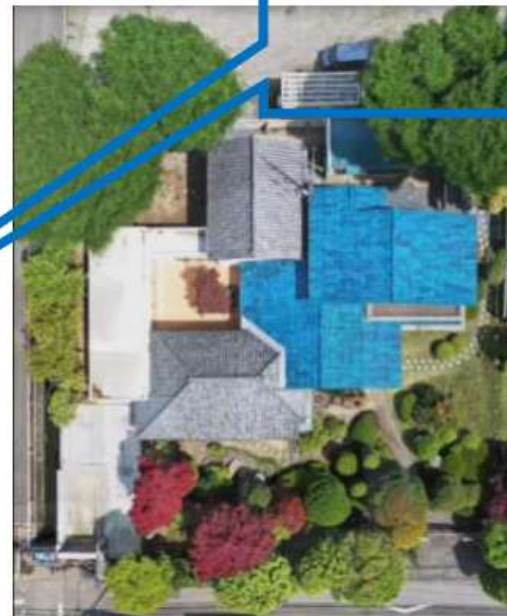
※このような、**前向きなご意見・暖かいお言葉**を皆さまから頂戴し、ご期待に沿えるよう、関係者一丸となって、取り組んで参ります。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



SMI(サンデン経営研究所) の所在地と連絡先のご紹介



■SMI(サンデン経営研究所)は群馬県伊勢崎市寿町96番地の
「旧サンデン歴史館」のところにあります。



※文化共有と相互交流の場として、皆さまのお越しをお待ち申し上げます。

来所の際は、あらかじめご予約ください。

<連絡先>

・ホームページ

<https://www.smi.or.jp>
のCONTACTより

・電話

080-5002-6071(藤井)

当メールマガジンの編集方針

■編集者ご挨拶に代えて

わたくしは、当メールマガジンの編集と配信を担当しております。このメールマガジンは、皆さまにSMIの活動といろいろな視点からの意見・知見などを「**ありのままで肩の凝らない読み物**」として、発信することを目的にしております。

コンテンツ[テーマ・内容]は、「**エッセイ**」「**談話室**」「**サロン**」「**ありのまま随想**」など、役員紹介も含めて順次いろいろなタイトルで不定期に発行します。

編集者自ら発信するこんな内容の「**つぶやき**」もあるかと思います。

- ・品質管理はこれだけ(最低限知っておくべきコト)
- ・会社の財務データの見方(経営層クラス向け)
- ・中華圏で最低限のコミュニケーションをとる
- ・ISO9001はこれだけ分かって準備すれば十分
- ・使えるデータ解析のやり方(実務者向け)
- ・しろうとでも失敗しない家庭菜園で自活生活 等々

皆さまからの**寄稿也大歓迎**ですので、共通の広場として、大いに活用していきましょう。

にゃんちゃって芸の ネタ案ボックスXX

これまでの自身の知識・経験&失敗(エラー)に基づいた、知恵とコツの継承および失敗防止を目指して、スマートに生きるための考え方や手法を提案します。
(「**やっちゃった！終わった！**」・・・にならないために)



(コンテンツの発案メモ帳)



いつもの場所に、いつものメンバーが偶然「全員集合」

左から二人目が編集者(男の顔は履歴書👁️?)

※編集後記<編集者より>

■三共電器・サンデンの歴史トピックを改めて振り返る

●自転車のダイナモ発電機・照明

昭和の前半生まれの方は、このフォルムに見覚えがあると思います。これまで電池式の角形ライトをつけて夜間走っていましたが、この電池のいらない灯火は、現代の再生エネルギーの先駆けでした。

しかし、ダイナモを回すとペダルが重くなるので、取り付けたとしても、夜間無灯火で自転車に乗る方も多かったですね。(汗)



●噴水型のジュース自動販売機

このジュース自販機VJ-30Eは、たしか昭和30年代の後半には街で見かけたと思います。自販機がまだ珍しい頃のことです。紙コップ1杯 ¥10でした。

自分はその当時、親にねだって買ってもらおうと思いましたが、家にある「粉末ジュース」で我慢なさい、と要求は見事に却下されました。(泣)

